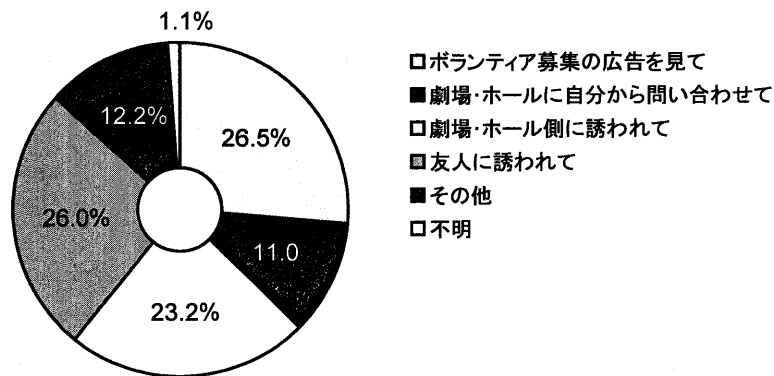


⑤ 募集方法

ボランティアの募集方法については、導入の経緯や業務内容によってさまざまな方法がみられる。

■ 図表 I -12 ボランティアを始めたきっかけ



○ 公募、口コミ方式

- ・「喜多方プラザ文化センター」、「武生国際音楽祭」、「春日市ふれあい文化センター」などで見られるように、導入当初は自治体の広報誌や劇場・ホールの機関紙による公募のケースが最も一般的である。ボランティアを始めたきっかけを参加者の側からみてみると、「ボランティア募集の広告をみて」(26.5%)が最も多い。
- ・一方で、「ボランティアをしないかと劇場・ホール側に誘われて」(23.2%)も高い数字を示しており、“地域住民個人の顔が見えている環境”であればこそ、という状況も見られる。
- ・また、「友人に誘われて」始めた人も26.0%と多く、一旦ボランティアが導入された後は、既に活動を行っているボランティア参加者の“口コミ”で参加する人の層も無視できない。

○ 企画提案方式

- ・「いまだて芸術館」の企画プロデューサーや「大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション」の「ちーふスタッフ」など、企画・制作型ボランティアの場合には、劇場・ホールの自主事業として“企画”そのものを募集し、それが採用されることが、ボランティアでその企画を実際に運営することにつながる。

○ 団体代表者方式

- ・ボランティア団体の設立が自治体側からの要請による「能登演劇堂振興協会」や「武生国際音楽祭推進会議」の前身「フィンランド音楽祭'90武生実行委員会」では、議会、区長会、青年団、商工会など市町村内の各種団体の

代表者が実行委員として集められて発足している。

- このような団体の代表者の場合、当初は必ずしも劇場・ホールの活動自体に関心のある人ばかりではないが、逆に“地域の活性化”や“街づくり”といった視点で劇場・ホールの活動を捉え、ボランティア活動の可能性を幅広くみている傾向も見られ、興味深い。

ボランティアの募集頻度についても、随時受け付けている場合と定期的に募集を行っている場合によって以下のような状況が見られる。

● 随時受付

- 公募や口コミなどにより、新規ボランティアの参入を随時受け付けている例としては、「春日市ふれあい文化センター」がある。
- 「いまだて芸術館」の企画プロデューサーシステムは、企画提案方式で、企画書を随時受け付けている。
- 「AEスタッフ(いまだて芸術館)」の場合は、芸術館の柿落しに出演した町民劇団「綺羅星座」のために集められたウラ方スタッフが母体になっており、開館後の継続的な活動のために開館翌年度、追加募集をしている。

● 定期受付

- 同じ企画提案方式でも、「大阪府立青少年会館・プラネットステーション」の「チーフすたっふ」は年1回募集される。それに基づいて、「いべんとスタッフ」も年1回の定期募集となっている。
- ウラ方業務など技術的な知識・経験を必要とするボランティアでは、定期的な技術研修参加者をまず募集し、その修了生が実際の現場に立つ場合が多い。具体的には、「たんば田園交響ホール」のステージオペレータークラブ(ステージオペレータークラブ養成講座の修了者)、「中島町文化センター・能登演劇堂」のウラ方ボランティア(舞台芸術アカデミー)の受講生などがそれにあたる。
- 「たんば田園交響ホール」の「レディース21(女性のみの企画・制作型ボランティア)」は、2年任期となっているが、更新は可能。

⑥ 実費支給の考え方

● 実費支給の有無

実費支給に対する考え方は劇場・ホール側によってさまざまであるが、業務内容による違いも大きい。

- 具体的には、「喜多方プラザ文化センター」の「舞台研究会うらかた」、「いまだて芸術館」の「AEスタッフ」、「たんば田園交響ホール」の「ステージオペレータークラブ」など、舞台のウラ方業務については“有償ボランティア”が主流である。